

平成 23 年度通常総会・理事会開催報告

日 時：平成 23 年 6 月 23 日（木）
15:00～17:20 総会・理事会及び意見交流会
場 所：如水会館 オリエンタルルーム

開会の挨拶：樋口会長

一昨年、当協議会の会長を拝命した時には会員数は 35 社で、活動の予算も十分ではありませんでした。運営体制を整えていく中、国土交通省と経済産業省から中国展開を一緒に進めて行こうとお声掛けをいただきました。そうなれば、官民一体となった動きができるので、本格的な活動を開始するために会員の増強をしましたところ、去年の総会時は 54 社、今年は 72 社となりました。

今年の 4 月には訪中団を結成して中国を訪問し、北京で中国の政府関連機関のトップとお会いして、中国にも日中建協と同じような民間の組織を設立いただくという予定でしたが、3 月 11 日の東日本大震災を受けて、訪中団の延期を決定しました。

中国は、成長路線の柱として環境とエネルギーを掲げています。新技術やバイオ技術にも非常に力を入れてきます。ギブアンドテイクで新しい技術を相手側へ提供し、相手が発展することによって、私たちの事業も発展するという形で、民間と民間の交流の幅を広げていきたいと考えています。

議案審議

第一号議案 平成 22 年度事業報告承認の件

第二号議案 平成 22 年度収支決算承認の件

平成 22 年度の会員数の推移と各委員会・部会の事業報告が行われた。引き続き、平成 22 年度の収支決算が報告され、第一号議案、第二号議案ともに理事会と総会に諮られ、承認を得た。

第三号議案 新規加入会員承認の件（理事会）

昨年 6 月の総会・理事会後の入会企業は、正会員 20 社、賛助会員 1 社、合計 21 社。平成 23 年度の入会企業は、正会員 2 社、賛助会員 1 社。

本議案は理事会に諮られ、24 社の入会が承認された。

第三号議案 役員選任の件（総会）

第四号議案 役員互選の件（理事会）

総会において、理事 19 名、監事 2 名の推薦があり、承認された。

理事会において、会長 1 名、副会長 5 名の推薦があり、承認された。また顧問 1 名の推薦と承認があり、会長より委嘱された。

第五号議案 平成 23 年度事業計画（案）承認の件（理事会）（総会は、第四号議案）

最初に、組織に関する報告がなされた。

- 1) 中国における当協議会のカウンターパートとなる組織の設立
- 2) 中国分科会について、日中建協とは緩やかな関係として今まで情報交流などを行ってきたが、種々の事情により、当協議会の中国賛助会員としての登録を解消することとする。

引き続き、事業方針が報告された。

- 1) 日中両国の政府並びに関係機関との連携を図り、官民一体となった事業の構築や政府及び関係機関の支援を受けて、具体的なビジネスに結びつく事業の展開を図る。
- 2) 各委員会・部会の活動を通じて様々な情報を提供し、会員企業の中国進出及び中国での事業展開の支援とする。

その後、各委員会の基本方針と事業活動項目が報告され、承認された。

理事会・総会の第2部として、理事の皆様と会員の皆様の意見交流を行いました。

矢野理事：

会員企業の中には、中・高層住宅、スケルトン販売やインフィル付などいろいろな展開をされていますが、今はそれに関する制約も出てきています。この辺りは、日本の様に国土交通省などの政府機関がきちっとルールを決める必要があるのですが、地方によって対応が違います。是非、日中建協が交流を活発にして、中国側は参考にさせていただければと思います。

芳井取締役（大和ハウス工業株式会社）：

新しい政策で3戸目の住宅が買えないというのは非常に効いていて、以前の様なスピードでは販売出来ていない状況です。この政策が何時まで続くのかですが、中国はGDPの8~9%の成長を世界に約束していますが、この達成は不動産、住宅の活性化なくしては有りえません。

大山社長（アイリスオーヤマ株式会社）：

中国は非常にマンションブームで、今まではスケルトン中心の販売でしたが、今は内装付マンションが非常に増えています。そして、中国のデベロッパーは、日本の品質に非常に高い関心を持っています。当社が中国で販売している価格は日本の2割から3割程度高い値段ですが、それでも買ってもらっています。一般市民の方の日本製に対するブランドと信頼性が非常に高いということです。中国で作って輸出する時代から、中国で作って中国で販売するという時代になりました。

樋口会長：

中国には、日本の建物や日本の技術に対する憧れや学びたいという気持ちがあります。そこに日本の技術を持っていくのは真似をしてもらうようなものですが、私はおおいに真似てもらえばいいと考えています。個人的な考えですが、人に真似されるようなものでないと、世の中に広く行き渡っていかないだろうと思っていますので、中国とはそれくらいの気持ちでお付き合いするのがいいと感じています。

岡本副会長：

当社は中国で設計やコンサル業務を行いますが、最近多いのは、街づくりのマスタープランの話と超高層ビルの設計が多いです。最近では地下鉄網もかなり発達して、すべての駅周辺で開発が行われ始めました。このノウハウはアメリカやヨーロッパには無くて、中国は日本のノウハウを大変求めています。地下鉄の上空に地下部分を含めた複合開発をするというプロジェクトは日本にしか無いので、日本の複合開発を視察して中国の駅周辺で駅の地下を使った開発を行っている状況です。

昨年の秋のAPEC横浜会議で、APECの国内で低炭素都市の第一号プロジェクトに天津の濱海新区の中にある于家堡が採択されました。中国では低炭素都市を中国に展開して行こうというかなり強い熱意があります。低炭素都市を造ろうという中国の熱い想いと、それと先ほど言った交通の結節点に新しい街を造って行こうという、いずれのテーマも非常に日本の得意とするところですので、中国の都市化に対するお手伝いして行きたいと考えているところです。

樋口会長：

本当はもっと皆様の話が聞きたいのですが時間の関係でここまでといたします。それではこれを以ちまして、総会・理事会を終わります。皆様有難うございました。

総会・理事会の報告決議事項と意見交流会の内容は、会報誌「日中建築住宅情報」№192 6・7月号に詳しく記載しています。